# 第1回文京区アカデミー推進協議会　議事録

| | | | |
|---|---|---|---|
| 日　時 | 平成27年4月22日（水）　18：30～20：30 | | |
| 会　場 | 文京シビックセンター24階　文京区議会　第一委員会室 | | |
| 委　員 | 会　長 | 水越　伸 | （東京大学教授） |
| | 副会長 | 久松　佳彰 | （東洋大学教授） |
| | 委　員 | 青木　和浩 | （順天堂大学准教授） |
| | 委　員 | 野口　洋平 | （杏林大学准教授） |
| | 委　員 | 田中　雅文 | （日本女子大学教授） |
| | 委　員 | 金輪　精梧 | （文京区町会連合会　副会長） |
| | 委　員 | 田中　ひとみ | （文京区女性団体連絡会　広報部長） |
| | 委　員 | 上田　武司 | （文京区商店街連合会　副会長） |
| | 委　員 | 鈴木　秀昭 | （東京商工会議所文京支部　事務局長） |
| | 委　員 | 天野　亨 | （文京区心身障害者福祉団体連合会　理事） |
| | 委　員 | 春田　孝二郎 | （文京区高齢者クラブ連合会　副会長） |
| | 委　員 | 三谷　規子 | （文京区青少年委員会） |
| | 委　員 | 鴻瀬　太郎 | （小学校PTA連合会　会長） |
| | 委　員 | 三浦　徹 | （中学校PTA連合会　理事） |
| | 委　員 | 柳澤　愈 | （文京アカデミア学習推進関係委員会、文京区アカデミア講座企画委員会　前委員長） |
| | 委　員 | 塩見　美奈子 | （文京区生涯学習サークル連絡会　会長） |
| | 委　員 | 井上　充代 | （文京区スポーツ推進委員会　副会長） |
| | 委　員 | 田辺　武之 | （文京区体育協会　副理事長） |
| | 委　員 | 髙澤　芳郎 | （シエナ・ウインド・オーケストラ　事務局長） |
| | 委　員 | 牧野　恒良 | （公益社団法人宝生会　事務局長） |
| | 委　員 | 白井　圭子 | （文京区観光協会　副会長） |
| | 委　員 | 荒木　時雄 | （公益財団法人東京観光財団　常任理事） |
| | 委　員 | 佃　吉一 | （公益財団法人アジア学生文化協会　常任理事） |
| | 委　員 | 森岡　隆 | （文京区国際交流フェスタ実行委員会　委員長） |
| | 委　員 | 小林　博 | （区民公募委員） |
| | 委　員 | 増田　純 | （区民公募委員） |
| | 委　員 | 金坂　吉雅 | （区民公募委員） |
| | 委　員 | 黒木　美芳 | （区民公募委員） |
| | 委　員 | 黒田　千恵子 | （区民公募委員） |
| | 委　員 | 松井　良泰 | （公益財団法人文京アカデミー　事務局長） |
| | 委　員 | 小野澤　勝美 | （アカデミー推進部長） |
| 欠　席 | 委　員 | 平井　宥慶 | （文京区民生委員・児童委員協議会　会長） |
| 事務局 | 山﨑　克己 | （アカデミー推進部アカデミー推進課長） | |
| | 矢島　孝幸 | （アカデミー推進部観光・国際担当課長） | |
| | 熱田　直道 | （アカデミー推進部オリンピック・パラリンピック推進担当課長） | |
| | 細矢　剛史 | （アカデミー推進部スポーツ振興課長） | |

福田　昭正　（アカデミー推進部アカデミー推進係長）
山本　恵美子（アカデミー推進部オリンピック・パラリンピック調整担当）
支援事業者　株式会社創建　大谷・氏原

資　料　　資料第1号 アカデミー推進計画の概要や課題について
資料第2号 アカデミー推進計画に関する実態調査　総評
アカデミー推進計画に関する実態調査　報告書（概要版）
アカデミー推進計画に関する実態調査　報告書（本編）
資料第3号 文京区アカデミー推進協議会スケジュール（平成27年度）
資料第4号 委員名簿

議　事

1．開　会

2．委　嘱

今年度より新たにアカデミー推進協議会委員になった方に席上にて委嘱を行った。

3．委員及び区職員紹介

事務局より、委員及び区職員を一人ずつ紹介した。

4．会長挨拶

水越会長よりご挨拶をいただいた。

水越会長　東京大学大学院情報学環にてメディア論・コミュニケーション論を専攻している。メディアやICT等を用いて地域の人たちがコミュニケーションのあり方を研究するとともに、実践的にサポートしている。平成22年度に現在のアカデミー推進計画（以下、「現行計画」）を策定する際、ここにいる学識委員の方たちとともに関わった。それ以降、計画の評価にも携わっている。現行計画の長所と課題を踏まえ、実のある計画を検討したい。時間の限られたなか迷惑をかけることもあるかもしれないが、よろしくお願い申し上げる。

本日は顔合わせを行った上で、今後の検討事項を共有したい。また、今後、分科会が開催される予定だが、その分科会の予定も事務局から説明いただく。みなさんが委員として検討するプロセスの全体像を把握することが本日の目標だと思う。

去年度から関係されている委員もいるが、計画の策定は、これまでの計画を評価する立場とは異なる。初めて参加する方も、継続して参加している方も、分からないことがあれば、遠慮なく質問していただき、目的を確認しながら協議を進めていきたい。

5．議　題

（1）計画の現状や課題について

事務局より、資料第1号に基づき、現行計画の構成と、その構成における課題について説明を行った。

水越会長　まず資料第1号に示されているように、文京区には基本構想があり、関連する計画として観光ビジョンがある。さらに、東京都の計画やビジョンもあり、アカデミー推進計画は様々な計画の関係のなかにある。大事なことは、アカデミー推進計画が埋もれないようにすることだ。そうならないように、中身のある計画になるよう検討・協議することが必要となる。

「アカデミー」という言葉で5つの分野がまとめられている点は大変ユニークだ。また、「まるごとキャンパス」という言葉も含め、区内に19の大学があることを踏まえ、広い意味での生涯学習につながる概念として「アカデミー」が捉えられている。このことを踏まえて、計画を実効性があり、かつアカデミー推進計画らしさを打ち出すことが重要だということを指摘しておきたい。

もうひとつ、現行計画の改善点について話をしておきたい。事務局より説明があったが、様々な事項が5つの分野に分かれて記述されるので、筋の通った構成にしなければいけない。

そして、現行計画では事業が例として示されているだけで、具体案が書かれていないことも改善するべき点だ。現行計画では事業例が示されているだけで、具体的な事業案が書かれていない。そのため、計画で掲げられた理念を具体化し、事業として展開する手掛かりがないまま、計画が推進されている。現行計画の理念に沿って事業をやろうと思っても、計画に記載がないために実行に移せないことがある。また、計画を評価する際にも、アカデミー推進課は積極的に事業に取り組んでいるにもかかわらず、計画との相違を感じる結果となっている。

せっかく豊かな生涯学習や文化事業が行われているのにもかかわらず、計画には沿っていないことが評価の際の悩みとなっている。計画には具体的な事業が示されていて、それが実施されたか否かを検証するようにできないと、評価ができない。新しい計画では、この点を改善し、具体的な事業を示していきたい。

同時に、東京都の計画や文京区の現状・実態と整合性のとれたものを検討していくことが重要だろうと考えている。継続して参加している委員の方は了解いただけると思うが、今後の協議は以上の点を注意して進めていきたい。

鴻瀬委員　PTAの活動をしていると、文京区には様々な団体があることが分かる。様々なイベントがあるが、似たようなことをやっている団体もあるなかで、どのような活動があるのかを把握できていない。長年携わっている方は把握されているかもしれないが、初めて参加する立場としては、活動を整理して、一覧できるような方法があれば、協議会での検討にとって役立つのではないか。

水越会長　まったく同じ意見だ。現行計画の表現では「情報の一元化」にあたると思う。5つの分野を個別に議論していると、また同じようにまとまりがなくなるだろう。鴻瀬委員のご指摘を実行していくことは、文京区に移り住まれたばかりの方にとっても、協議会にとっても重要だろう。

天野委員　文京区心身障害者福祉団体連合会で理事をやっている。これまでアカデミー文京等の講座にいくつか参加した。その際、正直申し上げると、全盲の人が参加していることでスタッフが戸惑っている様子を感じた。すぐに障害

者の受け入れることは難しいかもしれないが、障害者でも講座に参加できたり、自主的な文化芸術活動に取り組めるような計画になるとありがたい。そのための考え方は、障害者のために何かを考えようというのではなく、計画を考える際に障害者を含めて考えることが大切だと思う。

水越会長　よい意見だと思う。ありがたい。ご指摘のとおり、委員全員で障害者を含めて考えていきたい。

田中委員から、事前に、アカデミー推進計画の5つの分野は広い意味での生涯学習に含まれるというご意見をいただいている。自分も同意するところだが、今回初めて参加されるにあたって、このアカデミー推進計画についてどのように思われたか、率直なご意見をいただきたい。

田中委員　初めての参加なので、興味深く聞かせてもらっていた。生涯学習は概念があいまいで、ファジー概念と呼ばれるほど様々な捉え方をされる。たとえば内閣府が生涯学習の世論調査を行う際には、スポーツと文化芸術、英会話という意味での国際交流も含めて生涯学習の一環とされる。一方、アカデミー推進計画では、アンケートで生涯学習は教養分野と位置付けられており、5つの分野の1つに生涯学習を位置付けられている。自分は広い意味での生涯学習に慣れているので、新鮮に感じた。

アカデミー推進計画は、抽象的な理念と3つの目標の下に直接、5つの分野が位置付けられており、縦割りの構成になっている。ただ、分野ごとに細かく読むと、たとえば人材育成の取組が、それぞれの分野で言葉を変えながらも、共通して触れられている。だから、人材育成のような事柄は5つの分野に共通する「横串」として刺せるのではないか。

アカデミー推進計画は「区内まるごとキャンパスに」という基本理念を掲げており、サブタイトルにも「豊かな学び」という言葉を使っている。計画全体が、学びを通じて豊かな区民が育ち、みんなで交流しながらよい街をつくろうという理念に立っているのだろう。そういう意味では、広い意味での学びを意識して協議するのがよいのではないか。

色々と述べてきたが、各分野でそれぞれの言葉で書かれている事柄のいくつかが共通の問題になるとも思うので、縦方向と横方向の協議を行いながら計画をつくっていくことになるのだろうと思っている。

水越会長　評価の段階では、専門ではない自分が生涯学習と文化芸術分野の学識委員を兼任していた。計画策定にあたっては生涯学習の専門家が必要だと感じて、区にお願いして田中先生に参加いただいた。自治体の計画に最もくわしいのは田中委員だろう。また、初めての参加ということで、先入見のない視点で意見をいただけると期待している。田中委員と同じく、今日初めて参加される方のご意見も大切にしていきたいと思っている。

人材育成のことをご指摘いただいたが、鴻瀬委員のご指摘にあった区内の様々な活動や事業を集約し、ウェブや携帯で見られるようにすることも、分野にかかわらず重要なことだと思う。基礎をしっかりとつくった上で、共通の事柄を計画で取り上げていければよいと考えている。

アカデミー推進計画は時代に合わせて考えていくことが大事だと思うが、経

緯を踏まえることも必要だと思うので、その点について小野澤委員よりご説明いただきたい。

小野澤委員　アカデミーという概念の下で、これまで取り組んできた経緯を話させてもらいたい。

田中委員がファジーな概念を持っているとご説明された生涯学習は、もともとは教育委員会における学校教育とは別の、もうひとつの施策領域だった。生涯学習という概念が登場する前には、社会教育という考え方で事業が行われてきた。文部科学省が生涯学習を推進しようとするときに分かりづらかったのは、生涯学習が学校教育も内包する概念だったことだ。

社会教育に取り組んでいた時代は、行政が区民に講座を開催してあげるとか、自主サークルを組織する支援をしてあげるといった考え方だった。その後、そのような関係性ではないだろう考え、あくまでも区民のニーズにあった講座を提供することを重視するようになる。そのときに、区の特性である19の大学にご協力いただくようになり、各大学で講座を開催してもらうようになった。大学側は広報活動が十分ではないという悩みがあり、一方で行政側は人員・予算が限られているという課題があるなかで双方に利があると考え、大学連携がスタートした。

そのなかで、生涯学習を教育委員会という枠組みから外し、首長が責任を持って生涯学習に取り組める行政分野として捉えようと考えた結果、平成17年度に現在のアカデミー推進部を組織した。

もうひとつの特徴は観光が含まれている点だと思っている。本来は経済や産業振興の分野だが、文京区の特徴は文化資源であるという考え方から、観光が文化事業との関わりが深いと捉え、アカデミー推進部において取り組むものとして所管とされた。

その後、基本的な理念となるアカデミー構想を策定したのだが、その頃は区民参画での会議はできなかったため、事業は参考程度のイメージとして示す結果となった。その流れで、平成22年度に現行計画を策定する際にも、事業を例示するかぎりとなってしまった。例示であっても、自分たちは具体的な事業案という意識を持って事業にあたってきたが、どこかに甘さがあるのだろう。去年度までの評価会議でもご指摘をいただいてきた。

水越会長　今後、われわれが考えることの背景になる話だと思う。

これからは、去年度に実施したアンケート調査に関する議題に移りたい。本来であれば、調査項目についても協議会で検討できればよかったのだが、スケジュールの関係や社会調査の専門家に任せた方がよいという判断から、区の方で進めてもらっていた。

(2) 計画の現状や課題について

事務局より、資料第2号に基づき、去年度に実施したアンケート調査結果の概要について説明した。

水越会長　綿密な調査を行っていただいている。調査対象が2,000名ということだが、

全国調査でも2,000名いれば十分だと言われている。文京区の人口で2,000名を対象とした上に、50％近い方が回答されているというのは相当の数であり、調査結果は文京区のみなさんが普段考えていることだと捉えてよいだろう。
本日は、調査結果のほか、今後協議会をどのように進めていくのかを説明した上で、みなさんに分科会に分かれていただかなければならない。来月５月にも協議会が開催され、アカデミー推進計画を考える上での課題について協議する予定だが、そのなかでも調査結果をふり返ることがあるだろう。今回は時間を十分に取ることはできないが、次回吟味する機会もあるということを前提として、分からないことや気付いたことをご指摘いただきたい。

野口委員　次回の協議会に向けて、文京区の結果を、他の23区や東京都、全国の平均値と比較してもらいたい。すべて比較できるとは思わないが、他の自治体等の数字とともに示してもらえると、議論の参考になるのではないか。

水越会長　ぜひお願いしたい。平成22年度に計画を策定する際にも調査を行っている。ほぼ同じ項目でアンケートをしていると思うので、前回との比較も行ってもらいたい。事務局には、前回調査の資料の準備をお願いしたい。

黒木委員　前回からの変化はぜひ知りたいが、気になるのは、前回と同様に5つの分野で個別に設問を設けていることだ。なぜ横軸を通して、分野を横断するような設問がなかったのか。やや残念に思う。

水越会長　前回の調査から5年が経っているので、色々と変化があると思うので、前回調査との比較は参考資料として見たい。

黒田委員　とてもよいアンケートだと思う。集計のなかで「参加したいが、できなかった」「参加したいと思わない」といった否定的な回答の場合に、その理由を聞くような設問はあったのか。設問があるなら、結果を説明いただきたい。

事務局（支援事業者）　文化芸術・生涯学習・スポーツの分野において、「参加したいが、できなかった」「参加したいと思わない」と回答した方、ならびに「満足していない」と回答した方を対象にして、その理由を聞いている。回答としては、どの分野も「仕事・学業・家庭等で忙しいから」「都合が合わないから」といった個人的な理由が上位となっている。これらは区として対応しにくいと思うが、一方で「お金がかかるから」「情報が得られなかったから」も上位になっており、その点については課題になるだろう。

天野委員　障害者スポーツについて大変前向きな意見があった。また、パラリンピックに対してもポジティブに捉えてもらっており、ありがたい。
文京区には障害児が通う特別支援学校が何校かある。盲学校は都立と国立筑波大学特別支援学校があり、聴覚障害や知的障害もあったと思う。障害児がスポーツに取り組めるように計画のなかで考えてもらいたい。

三谷委員　アンケート回答者の居住地について聞きたい。青少年委員では、文京区全域で事業を行っているが、地域によって反響に違いがあるので、地域ごとに回答数に偏りがあることが気になった。説明では、住民数が異なることによって偏りが生じているということだが、住民数と回答者数の割合を教えてもらえると、今後計画を立てる上での参考になるのではないか。

事務局　次回、提示したい。調査報告書には、2,000名の方の居住地の内訳を掲載している。そもそも居住者が少ない地域もあるため送付数には偏りがあるが、回収率はおおむね40％前後になっているので、回答された割合でみると偏りがないと言える。

田中委員　黒田委員が指摘された理由について。問14で「参加したいが、できなかった」、「参加したいと思わない」と回答した人、さらに問15で「満足していない」と回答した人が、理由について回答している。ただ、選択肢のほとんどが、「参加したいが、できなかった」と回答した人向けのものになっている。

「満足していない」と回答した人は、問14で「参加している」と回答したことが前提だと思うので、その人たちが満足していない理由を聞くには別の選択肢が必要だったのではないか。次回の会議では、問14で「参加したいが、できなかった」と回答した人だけを抽出して、どのような結果になるのかを示してもらいたい。

事務局　承知した。

佃委員　事務局からの説明では分野ごとにまとめのコメントがあったが、観光分野のコメントがなかったようなので説明いただきたい。

水越会長　あらためて5つの分野すべてをご説明されたい。

事務局（支援事業者）　文化芸術については、鑑賞という点では熱心な方が多い一方、活動という点では二の足を踏んでいる。文化芸術という領域が必然的に抱えることだとは思うが、活動を促そうということであれば、文化芸術の枠組みを広げ、敷居を下げていくことが重要だと考えた。

生涯学習については、参加したいができなかったという方が多いことを踏まえ、参加しやすくすることが課題になるだろう。次に、参加した方がその知識を他人のために活かそうとするなかでも、半数の方がそういった意向を持ちつつも実行に移せていないことが分かったので、その点も課題になると見ている。

スポーツに関しては、実施率が38.4％であり、東京都が掲げる70％という数字とは開きがある。数値を上げることが求められるだろう。障害者スポーツに好意的な意見をいただいているのは、今後の事業推進にとってよい状況にあると認識している。

国際交流についても、意欲は持っているが機会がないという現状が分かった。外国人と自然に知り合う機会は少ないので、やはり区が機会を設けることが大事なのだろうと思う。一方、外国人が生活する上では、交流の機会だけでなく、具体的なサポートが重要だと認識されているので、その点も十分に取り組むことが大事なのだと思う。

最後に観光については、文京区のイメージが、庭園や公園、史跡・旧跡、明治期の文豪といった伝統的なものになっていることが分かった。それらは貴重な資源だと認識されている一方で、文京区の埋もれた魅力を活用するといった意見があるのは、違った何かを見出したいという意識が区民にあるのではないか。

水越会長　調査について深めていきたいが、次の議題に移らせてもらいたい。

なお、調査対象者は20歳以上の区民であり、青少年や子どもの意見は反映されていない。区に通学している児童・生徒もふくめて、青少年や子どものことを意識して計画を検討する必要もあるだろう。

(3)その他

事務局より、今後のスケジュールについて説明した上で、各人が参加を希望する分科会について委員個々の意見を伺った。結果、生涯学習分科会が9名、スポーツ分科会が7名、文化芸術分科会が8名、国際交流分科会が6名、観光分科会が6名となった。

水越会長　8月後半に予定されている第4回協議会で検討される事業案が、来年度の予算編成に関わる。その後、10月までに計画素案を作成し、12月上旬に予定されている議会で計画素案を決定いただいた上で、パブリックコメントを実施することになる。そこで寄せられた意見をもとに必要な修正を行い、最終案をつくるという段取りとなる。
資料第3号には分科会が合計4回開催されることになっている。委員全体の3分の1から4分の1の方で集まっていただき、各分野について協議する。このあと、みなさんが参加を希望する会議について伺いたい。
その前に、計画全体を考えて、横串に関する協議の進め方についてご意見をいただきたい。現在、横串はスケジュールに組み込まれておらず、検討する会議体もない。これ以上会議を増やすことは避けたいので、どうすればよいか。自分としては、次回の会議で話すべきだと思っている。そこで横串のイメージを共有した上で、各分科会に分かれて協議し、さらに第3回協議会で、個別の協議を踏まえて横串を決めてはどうか。

黒木委員　各委員が複数の分科会に参加するようにしてはどうか。ある分科会の協議に参加している人が別の分科会に参加することで、重なるように議論することで、アカデミー推進計画として横の連携が取れるのではないか。

水越会長　大学でも副専攻を取るに言われるが、まったく同じことだと思う。
お忙しいとは思うが、黒木委員のご指摘のとおり、複数の分科会に参加いただけるとありがたい。興味のある分野のほか、まったく異なる分野を選ばれるのも、ご自身の活動の参考になると思う。また、その分野に詳しくないということが、逆に協議によい効果をもたらすこともあるので、積極的に検討いただけるとありがたい。

三浦委員　分科会の終了後、次の分科会までのあいだにレポートしてもらえると、他の分野の協議状況も分かるのではないか。仔細にレポートする必要はないが、概要だけでも報告してもらいたい。

水越会長　事務局でまとめてもらいたい。報告は、よい内容だけでなく、課題についてもつまびらかにしてもらいたい。
横串は、誰かが素案をつくらなければ協議をはじめられないと思う。みなさんにご了承いただけるなら、自分が次回の協議会で3～5つの横串を素案として提案させてもらいたい。4名の学識委員にもアドバイスをもらいながら進めるが、委員のみなさんも意見があれば事務局を通じて連絡をいただき

たい。

久松委員　確認だが、横断型プロジェクトという枠組みがあるが、横串と呼んでいるものとの違いは何か。

水越会長　現状では十分に整理できてはいない。

横串は、情報を分かりやすく見せることや、人材を育成するといったことを考えている。一方、オリンピック・パラリンピックは、スポーツ分野のテーマなのかというと、そうではないという意見もある。スポーツに限定すると、東京ドームが野球の競技場になることが話題になるが、アンケート結果をみると、区民はそのような一過性のことは望んでいない。オリンピック・パラリンピックをきっかけにして何らかの変化を起こしていくためには何をすればよいのか。

森鷗外記念館の建設よりもスケールの大きな横断的なテーマであり、横串になると思う。ただ、そうなると、先ほど挙げた情報の一元化や人材育成とは意味合いが異なるものなので、横串として取り扱う以上は、混乱のないように気をつける必要がある。

次回、横串を提案させてもらった上で、ご意見をいただきたい。

以上